

“空の波打ち際”の創造 ～大空に一番近いまちづくり～

手づくり郷土賞について

公開審査会について

講評

大賞部門

一般部門

資料集

1 社会資本の概要

たきかわスカイパークは、昭和56年の集中豪雨による洪水被害状況を当時の市長が空から視察したことを見地から、青少年に大空の夢を与えるという社会教育的見地から、平成5年、グライダーの離発着に必要な広大な敷地と上昇気流が得やすい地形・気象条件に恵まれた滝川市の石狩川河川敷地に



広大な石狩川河川敷に広がる、日本でただ一つの本格的な航空公園。いつでも誰もが自由に空と触れ合える「空の波打ち際」



地域住民に大空の夢を育ませる市民体験飛行会

整備されました。

グライダーの飛行訓練や体験飛行のみならず、気軽に立ち寄り空を舞うグライダーを眺めたり、操縦席に乗り込んだり、各施設を利用して知的欲求を満たすことができるなど、いつでも誰でも空を身近に感じることのできる日本でただ一つの本格的な航空公園です。

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

たきかわスカイパークでは、愛好者を対象としたフライト事業のほか、小学校の「総合的な学習の時間」において、グライダー体験授業を導入したり、グライダーの体験飛行を観光プログラムに取り入れるなど、航空教育活動や観光活用事業を行っています。

また、ドクターヘリの常時受入れや、消防、警察、近隣自治体と協定を締結し、日常の飛行活動の中で



「総合的な学習の時間」を活用した小学生のグライダー体験授業。自分のまちを「鳥の目」で眺め、新たな視点で学習に活かします

スカイパトロールを行う航空防災活動などの先進的な取組、体験飛行をふるさと納税の返礼品とするユニークな取組も行っています。

航空機材を活用し、地域に根ざした積極的なまちづくり活動を実施することにより、たきかわスカイパークには年間3万人が訪れるなど大空に一番近い場所として地域住民に親しまれています。



ドクターヘリの常時受入れや、スカイパトロールを行う航空防災活動



日本一の作付面積を誇る菜の花畠とグライダーを組み合わせた観光活用事業



北海道滝川市 公益社団法人 滝川スカイスポーツ振興協会／滝川市

3 活動の成果や波及効果等

全国有数の飛行実績と全国一の飛行体験者数（H25実績：1,832人）を誇り、「滝川＝グライダーのまち」としての全国的に認知されました。

特にグライダーの観光活用事業においては、観光体験飛行が大きく伸び、東アジア観光客をターゲットとしたフォトウェディングなどのツアーを実施しており、今後も海外観光客の誘致には需要の拡大が見込まれます。



東アジア観光客のフォトウェディング

4 前回受賞時からの活動の発展内容

地域住民、会員、全国及び海外からのボランティアスタッフの積極的な登用により、高い専門性を必要とする事業展開においても人材不足に陥ることなく安定した運営を行っています。

また、北海道内4つのスカイスポーツ団体が共同でパンフレットを作成し、国内外の観光客を回遊させる取組を行うなど、観光面での広域連携の動きを強めています。

所在地
北海道滝川市中島町地先 石狩川河川敷

活動主体及び連絡先
公益社団法人滝川スカイスポーツ振興協会
(0125-24-3255、22-2976)
HP : <http://www.takikawaskypark.jp/>

対象となる社会資本
たきかわスカイパーク
※管理者：滝川市

喜びの声



受賞者

公益社団法人滝川スカイスポーツ振興協会
会長 中島 健

コメント

愛好者のみならず、市民や一般の方向けの事業にもバランスよく取り組んできたことが高く評価されたことをうれしく思います。今後も運航の安全を第一に、「空の波打ち際」のコンセプトの下、各種事業を充実させていきたいと思います。

活動内容

愛好者フライト事業、航空教育、航空防災、観光活用事業 など

活動の経緯

昭和56年 洪水被害状況視察
平成 2年 滝川スカイスポーツ振興協会設立
平成 5年 スカイパーク供用開始
平成23年 公益社団法人に移行



手づくり郷土賞について

公開審査会について

講評

大賞部門

一般部門

資料集